



一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2017 7-8 月号

【平成29年度定期総会・会員総会報告】

理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

【OBトップセミナー】

30年の製造メーカー経験から伝えたいこと

【研究者紹介】

水中プラズマ技術を利用した植物工場培養液の殺菌
YouTube にて、研究紹介動画を公開中!

【新聞記事コーナー】

中日新聞、中部経済新聞

【ホットライン】

ロボコン応援記

表彰者紹介

平成29年度 名古屋工業会給付型奨学金授与式

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

No.478

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

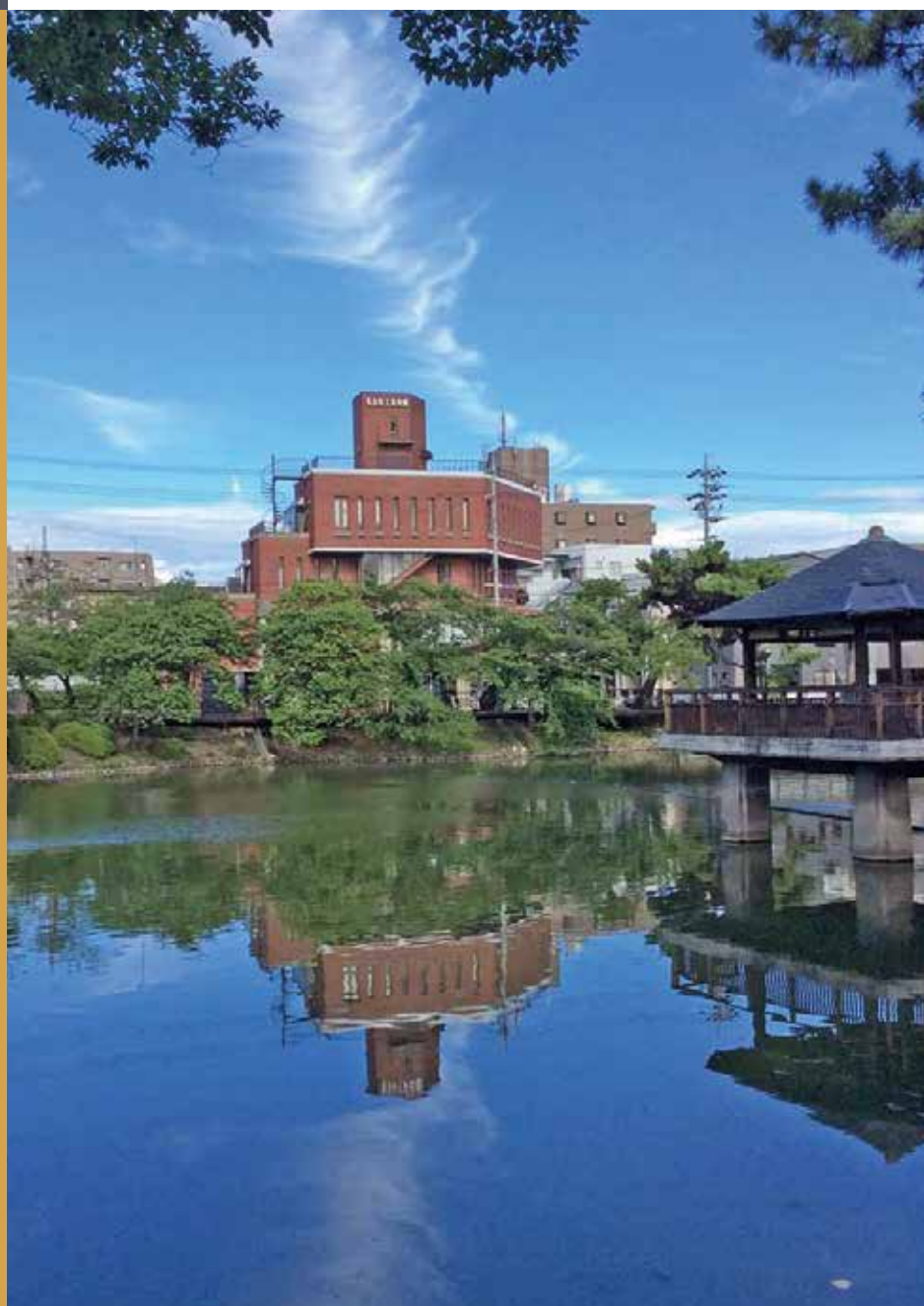
TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

○鳥人間コンテスト 開催日決定!!
平成29年7月30日(日)



平成29年度 名古屋工業会大阪支部総会のご案内

大阪支部長 岡崎格郎 (A46)

皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の大阪支部総会を下記のとおり開催いたしますのでご案内申し上げます。

今回は古野電気株式会社専務取締役の小池宗之 (E60) さまより、船舶用電気電子機器世界トップ企業「FURUNO」でのご活躍中の概要についてご講演をお願いしております。

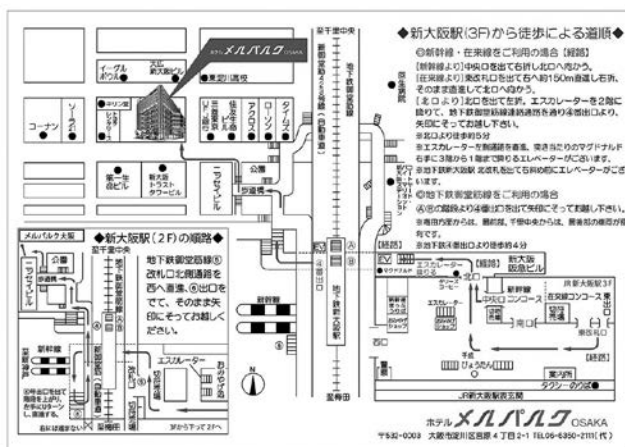
これに先立ち、有志見学会を当日午前に行いますので、あわせてご参加のほどお願い申し上げます。

1. 日 時：平成29年11月18日 (土) 15時から19時 受付は14時30分から行います
2. 場 所：新大阪「メルパルク大阪」5 F カナーレ (新大阪駅から西へ徒歩約5分)
(〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-2-1 電話06-6350-2103)
3. スケジュール

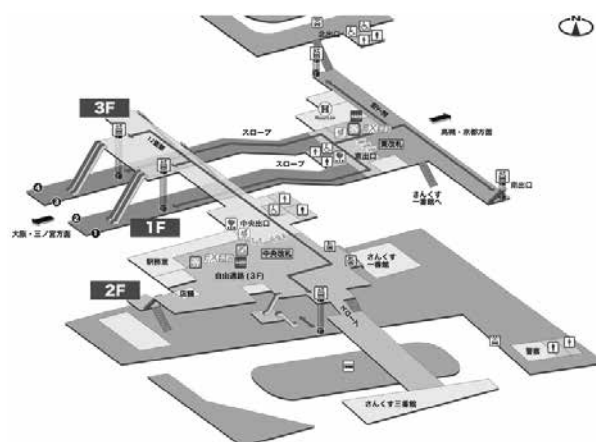
第1部 講演会	15時～16時 講師小池宗之氏 (E60) (古野電気株式会社専務取締役船舶用機器事業部長)
第2部 支部総会	16時10分～17時00分
第3部 懇親会	17時30分～19時30分 余興は器楽演奏
4. 参加費用：正会員：6,000円、非会員：7,000円、女性と卒業後3年以内の会員：無料
5. 有志見学会「西尾家住宅探訪」(第二代学校長武田五一氏が一部設計)
 集合場所：J R 京都線吹田駅中央改札口10時00分 (総会当日) 現地まで徒歩約15分
 (J R 新大阪駅・吹田駅間は普通電車で京都方向に約5分)
 解散場所：同吹田駅12時半ごろ (解散後は各自で総会会場まで移動・昼食)
 参加費用：無料 但し交通費・昼食は各自負担
6. 申込み方法：下記の連絡先代表者にメールにて総会および有志見学会参加の有無を連絡ください。
(個別案内は致しません)

単科会連絡先

C E 会	堀口大輔 (C59)	d-horiguchi@kcc.zaq.ne.jp	名窯会	勝野生代嗣 (Y57)	aub11021@nitech.jp
光鮫会	藤澤繁男 (A53)	fujisawa_so@konoike.co.jp	名晶会	田口教平 (K44)	taguchi.fkkt@hera.eonet.ne.jp
巴 会	掛田健二 (M45)	akeyan,ken@gmail.com	計測会	坂尾健司 (F55)	ksakao@air.zaq.jp
電影会	東 功 (E51)	kansai@denet.jp	経友会	廣島清剛 (B50)	art11328@nitech.jp
双友会	小山征治 (W42)	qtmx47101@ares.eonet.ne.jp	学生会員	佐野義和 (D51)	sano33@msn.com
緑 会	佐野義和 (D51)	sano33@msn.com	単科会連携	西岡 裕 (B50)	y.nishioka.1952@docomo.ne.jp



メルパルク大阪 (総会会場) 地図



JR 吹田駅構内図

表紙写真説明

「龍が池越しに見た工業会館」

撮影者 大鹿秀正 (F47)

平成29年度 定期総会・会員総会 報告

一般社団法人名古屋工業会の平成29年度定期総会、理事会ならびに会員総会が5月20日(土)、中日パレスにおいて開催された。

定期総会には、理事長、副理事長、常務理事、理事、代議員等が出席し、内藤常務理事の司会で、水嶋理事長が開会挨拶の後、議長となり、議事録署名人を指名した。内藤常務理事が報告事項を説明した後、28年度事業報告及び収支決算案、29年度事業計画及び収支予算案、代議員、理事の選任について審議され、各議案とも原案どおり議決され、終了した。

その後の理事会には、理事・監事が出席し、副理事長の選任と相談役および参与の就任について審議し、副理事長に大鹿秀正氏、岡崎格郎氏、相談役に木越正司氏、参与に清水益文氏の就任が議決され、終了した。

続いて開催された会員総会では、冒頭、28年度にご逝去された会員物故者71名のご冥福を祈り、出席者全員で1分間の黙祷を捧げた。

会員総会は内藤常務理事が司会となり、水嶋理事長の挨拶、鵜飼学長の会長挨拶の後、定期

総会ならびに理事会で諮られ承認された決議事項が報告された。

次に総会行事として、理事長から叙位叙勲等表彰者に記念品、母校退職職員に感謝状等、会員で卒業満70・60・50・40周年を迎えられた方への顕彰を行った。

続いて、森川民雄氏(W45)の司会で、東京工業大学名誉教授 谷岡明彦氏(W45)から「素材は未来を救う—環境・エネルギーへの挑戦—」と題して特別講演をいただいた。

会場を移して開催された懇親パーティーでは、檀尾副理事長の司会で森副理事長の挨拶の後、岡崎副理事長の乾杯の発声で始まり、名古屋工業大学学生オーケストラによる演奏のなか、杯を交わしながら和やかに歓談、旧交を温めた。また、参加された卒業満60・50・40周年を迎えられました方からお一人ずつ簡単な自己紹介と近況報告があり、参加者全員が大いに盛り上がった。最後に、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い、大鹿副理事長の閉会の辞で盛会裡に閉会した。

平成29年度 定期総会 次第

1. 議 事

(決議事項)

第1号議案 平成28年度事業報告及び収支決算案

第2号議案 平成29年度事業計画及び収支予算案

第3号議案 代議員の選任

第4号議案 役員を選任

(報告事項)

第5号議案 その他

平成29年度 会員総会 次第

1. 理事長挨拶 一般社団法人 名古屋工業会理事長 水嶋敏夫

2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学学長 鵜飼裕之

3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告

4. 行 事 イ 叙勲受章者に記念品贈呈 (6名)

ロ 名古屋工業大学定年退職職員への感謝状等贈呈 (17名)

ハ 名古屋工業大学卒業満70.60.50.40周年の会員への顕彰 (405名)

ニ 特別講演 講師：谷岡明彦氏(W45) 東京工業大学名誉教授

演題：「素材は未来を救う—環境・エネルギーへの挑戦—」

5. 懇親パーティー

理事長挨拶

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水嶋 敏夫 (M42)

一般社団法人 名古屋工業会 平成29年度会員総会の開会にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

本日は全国からこのようにたくさんの会員の皆様にお集まり頂き、誠にありがとうございます。

私が理事長を拝命した年から数えて、早いもので今回が三度目の会員総会になりました。

改めてこの三年間を振り返ってみますと、全学同窓会組織としての役割を果たすべく、「大学支援」と「会員相互親睦」という二本柱の活動を順調に進めてこられましたのも、会員の皆様の多大なご協力ならびに鶴飼学長はじめ大学教職員の皆様、関係各位のおかげと深く感謝申し上げます。

さて、会員総会に先立ち、先ほど開催した定期総会におきまして、平成28年度事業報告および決算案ならびに平成29年度事業計画および予算案をご報告し、了承頂きました事をここにご報告します。

決議事項の詳細は、後ほど常務理事からご説明しますが、基本的な考え方について私からご説明したいと思います。

工業会は「耀く、ますます耀く母校」を願って、大学支援を事業目的の第一としております。

名工大は鶴飼学長のリーダーシップのもと、実践的工学エリート育成をねらった学科再編や、六年一貫教育課程の新設など、大学改革の諸施策を計画どおり順調に推進されており、その成果が大いに期待されているところですが、工業会としては産学連携の窓口である「名古屋工業大学研究協力会」とも連携しながら、大学支援を更に充実して参りたいと思います。

ここで、昨年の工業会活動を少し振り返ってみたいと思います。

まず、大きなイベントとして昨年11月に開催した「第二回ホームカミングデー」には、多



数の同窓生や近隣の方にご参加いただきましたが、本日お集まりの皆さんの中にも、久しぶりに母校に足を運ばれて懐かしく思われた方もおられるのではないのでしょうか。

当日の特別講演は、昨年9月に竣工した大学の新講堂「NITech Hall (ナイテックホール)」で開催しましたが、新講堂の前に立つアウトドアクロックと新講堂1階ロビーのホールクロックは、これからの大学の歩みを見守って欲しいという願いを込めて、工業会として寄贈したものです。

会員の皆さんが今後母校を訪れる際の待ち合わせ場所などとしてもご活用頂きたいと思います。

今年は早々と日程を決めておりまして、10月28日土曜日に「第三回ホームカミングデー」を開催します。

卒業後30年、40年、50年および60年以上の方は、歓迎式典および懇親会にご招待しますが、学内見学や特別企画として、名工大OBで元三井物産株式会社代表取締役の田中浩一氏の講演会も計画されておりますので、充分楽しんで頂けるとと思います。仲間を誘い合って多くの方のご参加をお願いします。昨年は名古屋工業大学同窓会として初の女子会である『鶴桜会 (かくおうかい)』も創設され、年に一回、ホームカミングデーの日集まろうと計画されています。この新しい輪が拡げられるよう、皆さんからもPRをよろしくお願いします。

工業会は大学に対して各種の支援をしていますが、学生への奨学金もその一つです。

今年度は、昨年まで運営してきた「名古屋工業会特別奨学金」を転換し、「給付型奨学金」

制度を創設いたします。

これは、成績優秀者を応援するという従来の考え方を方向転換し、経済的に支援を必要とする者を応援していこうというものです。

一方で、ソーラーカーや鳥人間、ロボコンなど日本一や世界一を目指す学生を支援する「挑戦的課外活動活性化奨励金」も継続していきますが、工業会の支援が、より必要なところへ効果的に投入できるよう、今後も適宜見直しを図って参ります。

工業会の活動の第二の柱は「会員相互の親睦」です。具体的には、会員の皆さんへのサービス向上と相互親睦へのお手伝いができるよう、次のような取り組みを進めてきました。

まず、会員の方全員に会員証カードをお渡ししておりますが、工業会を身近に感じて頂けるようにするため、この会員証を使って受けられる優待サービスの拡大に取り組んでいます。

具体的には、徳川美術館や名古屋ボストン美術館への無料入場、全国チェーン展開するホテルの割引サービス等ですが、上新電機の割引は助かったという会員からの声をよく聞きます。

今後も会員にとってうれしい優待制度は、どんどん拡げていきたいと思っておりますので、全国各支部でもご検討をお願いして参ります。

会誌「ごきそ」につきましては、本年1・2月号より印刷した冊子での配布をやめ、会員専用ホームページでご覧頂くように致しました。省資源や通信経費削減のねらいもありますが、パソコンやスマートホンの普及状況も踏まえて変更したものであります。皆様の絶大なるご協力に感謝致します。

今後も工業会ホームページでの情報発信のやり方を工夫するなど、会員の皆さんに役立つサービス提供に努めてまいりますので、ご要望などありましたら是非ご意見をお寄せ下さい。

次に、工業会の会員増強の件ですが、各支部が積極的に勧誘して下さったおかげで、会員数は一万四千人を超える規模になりました。

皆様のご努力に感謝致しますとともに、今後ともこの活動を根気よく続けていきましょう。

私自身全国の同窓生の皆さんと懇親を深めたいと思い、各支部総会には可能な限り積極的に

参加しておりますが、その中で最近少し変化を感じるのには、女子と若手の会員が少人数ながらも出席してくれている支部が少しずつ表れ始めた事です。

その場合は、女子および若い人に話が集中して、今までとは雰囲気が大きく変わり、更に活発な交流ができていますように思います。今年3月に学部を卒業した大学生の90%は、入学時から既に工業会の会員であり、これから各支部の会員数は毎年確実に大きく増加していきます。

女子も含め若い人が参加できるように働きかけをよろしくお願いします。

以上のように、工業会の活動は「大学支援」と「会員相互親睦」を二本の柱として進めて参りますが、工業会は今年で創立102年を数えます。次なる100年に向けて、工業会の永続的活動を実現させるため、母校への支援を的確に実施すると同時に、全学同窓会としての基盤整備と会員サービスの更なる充実を図っていききたいと考えています。

その為には、会員名簿の整備・保守方法の明確化、計画的な財政運営、工業会と単科会および卒業生連携室との連携の充実、工業会館の耐震化など山積している課題について、昨年発足した分科会で対応策の方向性をクリアにしていきたいと思っております。

今後とも工業会活動の活性化に向けたご協力と積極的なご提案をお願いします。

最後に、母校が行う名工大基金へのご協力についてお願いがあります。

国立大学法人である母校が、限りある予算の中で優秀な学生を輩出し続けるには、卒業生の皆さんからの直接的な支援も必要です。あらゆる機会を捉え、名工大基金への寄付のご協力をお願い致します。

最後になりますが、本日は会員総会の後には、名工大OBで東京工業大学名誉教授の谷岡明彦氏による特別講演、その後に懇親パーティーを企画しております。

時間の許す限り親睦を深めて頂き、楽しい時間を過ごしていただきたいと思います。

本日はありがとうございました。

会 長 挨 拶

国立大学法人 名古屋工業大学 学長
一般社団法人 名古屋工業会 会長
鶴飼 裕之 (F52)

名古屋工業会会員総会の開催にあたり、母校、名古屋工業大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。名古屋工業会会員の皆様には、学生の修学、課外活動、海外派遣事業などの教育活動、ならびに教員の研究活動などにおいてご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。また、水嶋理事長をはじめ名古屋工業会役員の皆様には、常日頃より卒業生連携室、基金運営などの活動を通じて本学の事業運営を支えて頂いており、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

学長就任以来、「伝統を礎に、新たなグローバルステージへ」をビジョンタイトルに掲げた大学改革に教職員一体となって取り組んでまいりました。「名工大版理工系人材育成戦略」は、世界屈指のものづくり産業の集積地である中京地域に位置し、産学連携を教育と研究の両輪に据えて築いてきた伝統と実績を有する名工大だからこそできる改革プランです。そのひとつの柱が産業界、社会が求める人材像に対応して二つの教育課程を設置する新教育システムの導入です。2年目となる今年度も入試倍率は高水準を維持、また、わが国では初となる大学院博士前期課程までの6年間一貫的教育を実現する創造工学教育課程では、これまでとは一味異なる、自分の考えを積極的に表現できる名工大生が育っています。さらに、学部入学生での女子学生比率は17.9%となり、全国でもトップを走っています。外国人学生も、徐々にではありますが増加する傾向にあり、地域もアジアから欧州、アフリカなどに拡がりを見せています。今夏には、大学に隣接する旧狭間住宅跡地で外国人学生と日本人学生が同居する国際学生寮の建設に着工し、来年3月には第一期分として80名が入居する予定です。そこには女子学生専用スペースも計画しています。グローバル化において大切なことのひとつは、様々な価値観を有する多様な人々が共存するダイバーシティ環境へ適応できる能力を身につけることだと思います。学



生のみならず、研究ユニットによる外国人教員の招致、男女共同参画の推進による女性教員の増大、産学連携の強みを活かした企業型教員の受け入れなどもさらに進め、多様な人材が集うダイバーシティ環境を整備してまいります。

名工大がめざす実践的工学エリートとは、専門分野の知識と技能のみならず、歴史と風土、文化、社会の仕組み、そして世界を知るための幅広い教養を身に付け、自らの人生観、世界観をしっかりと備え、表現できる人材です。グローバル化において大切なことのもうひとつは、こうした教養と叡智を有し、世界の人々の前で説明できる能力を有することです。現代において必要な教養を身につける工学リテラシー、国際社会で活躍できるグローバルコミュニケーションなど新たなカリキュラムも導入しました。日本人学生の海外留学についても、海外研修・研究インターンシップの単位化、留学支援制度の充実など積極的に推奨しています。また、昨年、ホームカミングデーでのノーベル化学賞受賞者であるロアルド・ホフマン博士を招いて実施した講演会と博士の自伝的戯曲「これはあなたのもの」上演を通じて、科学技術と人文知の多元的な視点からのメッセージを社会に向けて発信できたことは、工学系大学としての本学にとって大変意義のあることでした。

新しく迎えた学生が産業界、社会の期待に応える人財として巣立っていくのはもう少し先となりますが、先輩として彼らの成長を温かく見守って頂ければ幸いです。

名工大の教員は、世界的な研究レベルにおいても産学共同研究実績においてもトップクラスの実力を有しています。「名工大版理工系人材

育成戦略」のもう一つの柱は、ひとり一人の能力をさらに高めるとともに、その能力をチームとして活かすことで、名工大の強みを世界に、そして産業界に発信するため、研究組織、産学官連携組織を整備して研究力を強化することです。研究動向調査・分析などを活用した戦略的、組織的な研究支援、産学官連携センターにおける大型共同研究の獲得に向けた努力が実り、昨年度は、科学研究費補助金、受託研究、共同研究などの外部資金獲得額が大幅な増加となりました。

研究のグローバル展開を目的に研究特区として整備した材料科学と情報科学のフロンティア研究院では、研究ユニット毎に海外の著名大学・研究機関からの外国人教員を採用して共同研究教育ネットワークを築いています。その成果は、教員一人ひとりの国際的共著論文への展開のみならず、海外の大学との組織的な交流に発展しています。来年三月には、オーストラリアのウーロンゴン大学と共同で大学院博士課程を設置し、情報学でのジョイントデグリープログラムを開始する予定です。また、ドイツのエアランゲン・ニュルンベルク大学とは二国間交流事業の共同提案を進めています。また、中国、マレーシア、フィリピンをはじめとするアジア地域の大学とは、研究および学生交流の実績を重ねて、大学対大学、大学対地域という組織的な協同関係を築いています。さらに、若手教員の国際的な研究力・教育力を養うため、一年間、本務を離れて海外に送り出す「若手研究者在外研究員制度」も軌道に乗ってきました。こうした取り組みは、研究のグローバル展開に大きく寄与するものであると確信しています。

わが国の産業がグローバル競争に打ち勝つために、産学連携活動により名工大が貢献していくことも研究のグローバル展開に通じています。名工大の産学官共同研究の実績は常にわが国の最上位にランクされています。しかし、これまでのように個々の教員の共同研究を主体とした取り組みだけでは限界があります。教員と企業のお付き合いの関係から組織対組織による共創の関係へ。これが、新たな産学官連携のめざすところです。経団連においては2025年までに産学連携経費を欧米並みに現在の3倍に増

加させると明言しています。しかし、そのためには、事業費、人件費、管理費などの研究経費のみならず研究プロセスの透明性を担保し、知的財産権の在り方、研究成果に対する評価の指標・方法などを見直すことが求められています。その意味で、産学連携は新たな段階に入ったとも言えます。一方、名工大の強みは教員の研究力だけではありません。大型研究教育設備も他機関に比して極めて充実しており、学内外での共用促進を図ることで、一層共同研究に拍車をかけることができます。今年は、産学官連携センターと大型設備基盤センターを一体的に再編し、スピード感とともに信頼感ある組織的な対応づくりを行っていきます。

一方、中京地域のものづくり産業を支えてきた中堅・中小企業への貢献も、名工大にとっては重要な使命のひとつです。今、この地域の産業構造は、脱CO₂化、自動運転技術、製造業での第四次産業革命への対応、航空機産業への期待などに起因して大きな転換点を迎えています。わが国の製造業には、「要素技術力」「現場力」「改善力」など優れた生産技術が蓄積されています。それらを活用しながら、多様化する価値・ニーズに柔軟に対応できるモノづくり、そしてビジネスエコシステム（コトづくり）を推進するための事業を産官学金で始めています。また、中小企業を対象とした「産学官連携学び合いプログラム」も、好評のうちに三年目に入りました。大学にとっては学生の実践力を涵養する社会実装教育や産学共同研究へと繋がり、企業にとっては新たな製品に繋がる新技術の創出が期待できる名工大オリジナルの実践型教育プログラムです。

国内外の大学・研究機関、産業界、行政、金融界とのネットワークを介して「人」「知」「技術」をつなぎ、学術・技術で新しい技術の価値を創造しグローバルに発信する拠点。名工大がめざすのは、このような「工学のイノベーションハブ」です。

名古屋工業大学は、教育と研究の両輪を改革によってさらに勢いよく回転させ、グローバルステージへと踏み出してまいります。皆様のより一層のご支援、ご協力をお願いして、私の挨拶といたします。

平成29年度 役員名簿

理事(9) 水嶋敏夫 M42 ○ 大鹿秀正 F47
 樫尾恒次 C48 ○ 岡崎格郎 A46
 内藤克己 A43 森 秀樹 D52
 加川純一 K49 森川民雄 W45
 川村信之 E53

監事(2) ○ 水谷尚美 D42 安藤正晴 B43

相談役(6) 藤原俊朗 K31 市川日出男 D32
 牛込 進 Y33 篠田陽史 M33
 二杵幸夫 K39 ○ 木越正司 C44

参 与(10) 宇佐美貞夫 F40 北村健治 B40
 加藤作次 C40 河辺 彰 K40
 伊藤要蔵 B42 張田吉昭 M43
 北村 正 Es48 楠田修三 A50
 阿部完二 D41 ○ 清水益文 F44

顧問(7) 河本毅一 C32 飯田秀郎 W33
 横田章宏 D33 道家清正 Y30
 日比貞雄 W35 大橋照男 K36
 小田征一郎 E36

支部長(22)

北海道 三田村好矩 F41
 東 北 齋藤文伸 A51
 東 京 樫尾恒次 C48
 甲信越 若林俊樹 M56
 静 岡 山之上誠 C49
 三 河 ○ 中島和彦 Y58
 名古屋 ○ 大鹿秀正 F47
 尾 張 音無通男 W41
 岐 阜 元島栖二 D40
 北 陸 馬場清和 M44
 三 重 北川貴志 C50
 大 阪 ○ 岡崎格郎 A46
 兵 庫 高瀬陽太郎 C53
 岡 山 野村幸宣 C54
 広 島 菱川躬行 E34
 山 口 岸田潤三 C58
 山 陰 糸賀輝穂 C51
 香 川 細谷芳照 C53
 徳 島 後藤田啓造 M38
 愛 媛 千羽茂雄 C43
 高 知 山崎健司 A54
 九 州 喜多村治雄 M40

代議員(84)

北海道(1) 秋山秀雄 Es43
 東 北(1) ○ 佐竹毅彦 Y57
 東 京(7) 松田和繁 C55 森本晃一 Es43
 小川一郎 F52 鈴木満雄 D45
 松浦明人 M47 ○ 長谷川久已 A62
 細谷佳弘 K50
 甲信越(2) 若林俊樹 M56 樋口 順 C48
 静 岡(2) ○ 山之上誠 C49 榊原 学 F48
 三 河(11) 中島和彦 Y58 吉木 満 W56
 ○ 浜田成孝 D⑫ 岩田忠三 M59
 沼澤成男 M59 ○ 伊藤雅幸 D⑨
 岡本幹浩 M60 松坂勝広 D61
 ○ 水野文彦 K63 ○ 山本英二 G60
 ○ 出崎 亨 K61
 名古屋(23) 水野 貢 C57 兼岩 孝 C54
 藤田素弘 C60 荒金謙一 A45
 井澤知旦 A51 武内博明 Mb①
 ○ 伊藤孝行 I⑦ ○ 富田庸公 Mb①
 ○ 前田佳弘 E⑩ 泉地正章 W44
 橋本 忍 Y② 小坂井孝生 K49
 ○ 大鑄史男 F49 三宅正人 E60
 森川民雄 W45 ○ 犬塚正憲 D48
 緑 静男 D42 大橋聖一 D45
 ○ 野々山尚志 Y63 小山敏幸 K61
 守田賢一 F47 鷺見克典 B63
 ○ 石橋 豊 J56
 尾 張(6) 中村啓之 A41 服部重夫 Y43
 立石吉行 M44 伊藤美保 D44
 ○ 大竹昌志 C54 音無通男 W41
 岐 阜(7) 各務剛児 C53 ○ 田中清之 A54
 堤 善治 M45 関尾光正 D41
 大久保陽一 Es44 笹島 康 Y39
 兼松克司 K42
 北 陸(2) 黒田 茂 M47 吉岡正盛 B58
 三 重(4) ○ 黒木清篤 D52 ○ 太田寛之 D57
 久世憲志 C52 太田啓雅 E62
 大 阪(5) ○ 川越英二 E47 ○ 伊藤俊明 M45
 ○ 佐野義和 D51 ○ 西岡 裕 B50
 田中耕嗣 G52
 兵 庫(2) 高瀬陽太郎 C53 ○ 西川芳久 C47
 岡 山(2) 虫明正博 K59 ○ 小倉俊彦 A58
 広 島(1) 菱川躬行 E34
 山 口(1) ○ 川上為夫 W42
 山 陰(1) 土肥美実 C57
 香 川(1) 浅野啓三 F60
 徳 島(1) 福井一博 A46
 愛 媛(1) 浜田裕介 D⑭
 高 知(1) 山内 健 C53
 九 州(2) 喜多村治雄 M40 安達高春 A46

○: 新任候補者

平成 28 年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

平成 25 年 4 月 1 日に一般社団法人へ移行し、定款に基づく公益目的事業である大学支援を的確に実施すると共に会員交流・会員優待制度の導入等同窓会としての諸事業を実施した。更に新入生に対する諸納金制度の導入により財政基盤の充実を図った。

2. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援

国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため、名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、学生の海外留学・派遣に対する支援の充実を図った。

- ① 学生の海外研鑽支援－学生 33 名

(2) 教育研究等支援

- ① 第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ② 教員の研究力向上に資するため名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、母校における研究の振興を図った。
- ② 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ③ 理事長及び常務理事が名古屋工業大学基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ④ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行なった。
- ⑤ 名古屋工業大学の定年退職教職 12 名に、会員総会で感謝状と記念品を贈呈した。
- ⑥ 名古屋工業大学 O G による「鶴桜会」設立に対して支援金を授与した。

(3) 学生支援

- ① 国際化推進のための海外留学等の支援を行った。（再掲）
- ② 名古屋工業会賞の贈呈
平成 29 年 3 月 23 日の学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 19 名に対し、理事長より工業会賞として表彰状並びに記念品を贈呈した。
- ③ 平成 28 年度前期日程入試における各学科の最優秀者 6 名に対し、名古屋工業大学長出席のもと理事長から工業会特別奨学金を授与した。
- ④ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ⑤ 挑戦的課外活動活性化のため、ワールドソーラーチャレンジ in オーストラリア、鳥人間コンテスト等に重点的に課外活動奨励金、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑥ 新講堂（NITech Hall）竣工に際し、新たなシンボルとして、ホールクロック及びアウトドアクロックを寄贈した
- ⑦ 平成 28 年 3 月卒業の終身会員に祝意を表し、記念品を贈った。
- ⑧ 学生の就職支援の一環として、OB の企業トップによるセミナーおよび OB 講演会を開催した。
- ⑨ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。
- ⑩ 新入生の保護者に工業会の学生支援等の説明を行うと共に、在学生の保護者に大学情報等の提供のため、会誌を送付した。

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 財政基盤の強化のための会員増強活動

①OB 未入会者への勧誘

- 1) OB 入会率向上のため、卒業後経過年数による終身会費割引制度を改訂した。
- 2) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 3) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
- 4) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 5) 本年度新規入会者 () は前年度実績

終身会員 55(66)名、 年度会員 30(32)名、 合計 85(98)名

②新入学生への勧誘

新規入会者

一括納付による終身会員 917(980)名、 4 年累計 4,881 名

③在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。

④平成 28 年度末、対象者 62,617(61,118)名、会員 13,714(13,172)、OB 会員入会率； 21.9(21.6)%
会員の内訳 終身会員 10,850(10,279)名、年度会員 2,864(2,893)名

(2) 活性化活動

①会員交流および広報活動

- 1) 隔月刊行している会誌「ごきそ」を平成 29 年 1 月号から電子化し、ホームページによる閲覧へ移行した。なお、希望者には引き続き「誌面」による「ごきそ」を送付するとともに発刊時にお知らせメールのサービスを開始した。
更に、3・4 月号を新入生、5・6 月号を全在校生の保護者に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
- 2) 会員証による会員優待制度を充実・拡大し、ホームページ等により会員に広報・周知を行った。
- 3) 工業会が保有する卒業生名簿の整備について、卒業生連携室の協力を得て検討を行った。
このため、卒業生連携室と共同で単科会との懇談会を開催した。

②支部活動

- 1) 各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。
- 2) 支部長会議及び支部連絡会を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。

③単科会との連携

- 1) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④講演会の開催

- 1) 会員総会後に特別学術講演会を開催した。
講師： 浅野 勝宏氏 (E53) (株)豊田中央研究所 リサーチアドバイザー
演題：『運転支援システムの変遷 ・ 過去の体験を通じて見える将来像・』

⑤記念品の贈呈

- 1) 平成 27 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、会員総会で記念品を贈呈した。

津田 和一	瑞宝中綬章	名古屋工業大学名誉教授
宮崎 亨 (K35)	瑞宝中綬章	名古屋工業大学名誉教授
神谷 茂 (C11)	瑞宝双光章	
小谷 一郎 (W55)	瑞宝小綬章	
原田 彪 (C42)	瑞宝小綬章	

- 2) 卒業満 70, 60, 50, 40 周年に該当する会員に、記念品を贈呈した。

70 年—昭和 21 年卒 14 名、60 年—昭和 31 年卒 75 名 50 年—昭和 41 年卒 140 名
40 年—昭和 51 年卒 99 名

平成28年度収支決算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	4,515,103	5,484,000	△ 968,897
(1) 財産利子収入	2,001,073	2,003,000	△ 1,927
(2) 会誌広告収入	318,000	601,000	△ 283,000
(3) オフィス賃貸収入	1,369,030	2,100,000	△ 730,970
(4) 駐車場賃貸収入	767,000	780,000	△ 13,000
(5) 寄附金収入	60,000	0	60,000
2) 入会金, 会費収入	80,290,000	87,376,000	△ 7,086,000
(1) 入会金収入	154,000	164,000	△ 10,000
(2) 年度会費収入	4,706,000	6,182,000	△ 1,476,000
(3) 終身会費収入	75,300,000	80,900,000	△ 5,600,000
(4) 賛助会費収入	130,000	130,000	0
3) 雑収入	105,522	48,000	57,522
(1) 雑収入	105,522	48,000	57,522
4) 積立預金取崩収入	742,712	1,500,000	△ 757,288
(1) 減価償却積立預金取崩収入	742,712	1,500,000	△ 757,288
5) 前期繰越収支差額	7,513,702	7,513,702	0
(1) 前期繰越収支差額	7,513,702	7,513,702	0
収入の部合計	93,167,039	101,921,702	△ 8,754,663

注1 年度の切り替え時期の納入による誤差

注2 学部生・大学院生の入会の減

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	83,912,287	85,002,000	△ 1,089,713
(1) 大学支援事業	47,482,238	48,200,000	△ 717,762
ア 教育研究支援	7,247,141	6,900,000	347,141
イ 学生支援	38,594,446	39,800,000	△ 1,205,554
ウ その他支援	1,640,651	1,500,000	140,651
(2) 工業会の充実のための事業	33,826,206	34,185,000	△ 358,794
ア 会員増強活動	2,788,510	3,870,000	△ 1,081,490
イ 広報活動	17,833,073	17,000,000	833,073
ウ 支部活動	10,762,207	12,010,000	△ 1,247,793
エ 会員慶弔	2,276,168	1,128,000	1,148,168
オ 講演会	166,248	177,000	△ 10,752
(3) 収益事業	2,603,843	2,617,000	△ 13,157
ア オフィス賃貸	2,198,810	2,100,000	98,810
イ 駐車場賃貸	405,033	517,000	△ 111,967
2) 管理費	10,436,294	10,000,000	436,294
(1) 総会経費	2,180,999	2,500,000	△ 319,001
(2) 管理諸経費	8,255,295	7,500,000	755,295
3) 固定資産取得支出	742,712	1,500,000	△ 757,288
(1) 固定資産取得支出	742,712	1,500,000	△ 757,288
4) 次期繰越収支差額	△ 1,924,254	5,419,702	△ 7,343,956
(1) 次期繰越収支差額	△ 1,924,254	5,419,702	△ 7,343,956
支出の部合計	93,167,039	101,921,702	△ 8,754,663

注1 挑戦的課外活動活性化経費（ソーラーカー部等）の減少

注2 会員証発行の減少（平準化）

注3 支部行事支援金の支払計上の時差

注4 卒満カレンダーの過年度支払

正味財産増減計算の部

(1) 増加の部

平成29年3月31日

(単位:円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	当期繰越収支差額	△ 1,924,254	
	建物付属設備増加額	0	
	什器備品増加額	742,712	
	減価償却積立預金増加額	2,627,962	
	退職給与引当預金増加額	400,000	
増加額合計		1,846,420	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	7,513,702	
	建物償却費	1,537,525	
	建物付属設備償却費	306,860	
	什器備品償却費	783,577	
	減価償却積立預金減少額	742,712	
負債の増加	退職給与引当金増加額	400,000	
減少額合計		11,284,376	
当期正味財産増減額		△ 9,437,956	
前期繰越正味財産額		318,187,766	
期末正味財産合計額		308,749,810	

貸借対照表

平成29年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	478,351	445,130	33,221
預金	66,485,593	73,566,244	△ 7,080,651
流動資産合計 (A)	66,963,944	74,011,374	△ 7,047,430
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
調査研究助成積立預金	22,534,377	22,534,377	0
退職給与引当預金	3,795,191	3,395,191	400,000
減価償却積立預金	62,317,883	60,432,633	1,885,250
特定資産合計 (B)	88,647,451	86,362,201	2,285,250
(2) その他固定資産			
土地	26,150,730	26,150,730	0
建物	31,141,576	32,679,101	△ 1,537,525
建物付属設備	1,823,865	2,130,725	△ 306,860
什器備品	2,424,029	2,464,894	△ 40,865
投資有価証券	95,493,846	97,884,372	△ 2,390,526
差入保証金	150,000	150,000	0
その他固定資産合計 (C)	157,184,046	161,459,822	△ 4,275,776
固定資産合計 (D) = (B) + (C)	245,831,497	247,822,023	△ 1,990,526
資産合計 (E) = (A) + (D)	312,795,441	321,833,397	△ 9,037,956
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
受入保証金	250,440	250,440	0
退職給与引当金	3,795,191	3,395,191	400,000
固定負債合計 (G)	4,045,631	3,645,631	400,000
負債合計 (H)	4,045,631	3,645,631	400,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	308,749,810	318,187,766	△ 9,437,956
正味財産合計 (I)	308,749,810	318,187,766	△ 9,437,956
負債及び正味財産合計 (J) = (H) + (I)	312,795,441	321,833,397	△ 9,037,956

財 産 目 録

平成29年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
I. 流 動 資 産		
1. 現金	478,351	
2. 普通預金(三菱東京UFJ銀行)	13,518,567	
3. 当座預金(ゆうちょ銀行)	1,848,172	
4. 定期預金(大和ネクスト銀行等)	51,118,854	
流動資産合計	66,963,944	66,963,944
II. 固 定 資 産		
1. 特定資産		
(1) 愛知県公債 (野村証券)	22,534,377	
(2) 国 債 (野村証券)	66,113,074	
特定資産合計	88,647,451	88,647,451
2. その他の固定資産		
(1) 土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2) 建物 会館鉄筋5階建延646.88 m ²	31,141,576	
(3) 建物附属設備	1,823,865	
(4) 什器備品	2,424,029	
(5) 国 債 (野村証券)	33,886,926	
(6) 大阪府公債 (野村証券)	10,000,000	
(7) 大阪府公債 (野村証券)	20,000,000	
(8) 愛知県公債 (野村証券)	1,465,623	
(9) なごやか市民債 (野村証券)	30,000,000	
(10) 金銭信託(みずほ信託銀行)	141,297	
(11) 差入保証金 (セコム・八重洲倶楽部)	150,000	
その他の固定資産合計	157,184,046	157,184,046
固定資産合計	245,831,497	245,831,497
資 産 合 計	312,795,441	312,795,441
(負債の部)		
I. 流 動 負 債		
流動負債	0	
流動負債合計	0	0
II. 固 定 負 債		
受入保証金	250,440	
退職給与引当金	3,795,191	
固定負債合計	4,045,631	4,045,631
負債合計	4,045,631	4,045,631
正味財産		308,749,810

監 査 報 告 書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水 嶋 敏 夫 殿

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 29 年 4 月 13 日

一般社団法人 名古屋工業会

監事

清水益文 

監事

安藤正晴 

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水 嶋 敏 夫 殿

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの公益目的支出計画実施報告書に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において公益目的支出計画の実施の状況を調査致しました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検証しました。

2 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

平成 29 年 4 月 13 日

一般社団法人 名古屋工業会

監事

清水益文 

監事

安藤正晴 

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【28 年度(平成28年4月1日 から平成29年3月31日 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	345,398,646円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	185,116,770円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	137,772,186円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	47,482,238円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	137,654円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	160,281,876円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	
今年度は支払助成金が計画時の額を上回り、また、収入が計画時の額を若干下回ったが、今後の実施事業の規模を鑑みても、実施期間に関しては影響はないと考える。	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成33年3月31日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円
公益目的収支差額	137,457,282円	137,772,186円	183,276,376円	185,116,770円	229,099,782円
公益目的支出の額	45,961,060円	47,541,256円	45,961,060円	47,482,238円	45,961,060円
実施事業収入の額	141,966円	137,654円	141,966円	137,654円	137,654円
公益目的財産残額	207,941,364円	207,626,460円	162,122,270円	160,281,876円	116,298,864円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。